



まさかの人生から

みやもとかつあき
みなまた 水俣市長(熊本県) 宮本勝彬

Katsuaki Miyamoto



少年野球教室で始球式をする筆者

在になっていま
す。仕事で疲れ
て帰ると、サク
ラとクロが玄関
先まで二匹揃っ
て走ってきます。
クロは決まって
ゴロンとひっく
り返って、何故

わが家
私は妻と娘と暮らしていますが、こうして市長職を続けていられるのも家族に支えられているからだ、あらためて感じています。休日イベントが多いので、家族サービスらしいこともできません。不在がちな私の代わりにわが家を守ってくれているのが、愛犬ムーと愛猫サクラ、クロです。彼らは飼い主との間にそれぞれつらい別れがあつてわが家にやってきましたが、今ではとても大切な存在

む程度です。
これまで随分、野球やソフトボールをやってきました。地域のチームに入つてやらないかと誘われるのですが、これもなかなかです。市長職が終わったら……もう遅いでしょう。好きな運動を再開して、健康のためにも体を動かさなくては焦りながらも、やはり同じ日を繰り返しています。



マイバッグ運動

この私が市長に?
どこかでこんな言葉を聞いたことがあります。「人生には3つの坂がある。それは「上り坂」、「下り坂」、そして、「まさか」です。私のこれまでの人生は、まさに「まさか」の人生だったように思います。元来短気で、面倒くさがり屋で、せっかちで、人見知りをするし、今、それを気づかれないように見事に演じて生きている毎日です。
当時教育長をしていた私に、突然、市長選出馬への要請がありました。何で自分に。「まさか」です。世界で類例を見ない公害を経験した水俣のまちに突然、産業廃棄物処分場の建設が計画されたので

す。その反対の旗頭をして欲しいと要請を受けたのです。それが市長になるきっかけでした。随分いやがらせも受けたのですが、全力を挙げて阻止活動を展開して建設を止めることができました。建設阻止活動を行うに当たっては、市民はもとより市外の多くの方々から強力な支援を受けることができました。これが水俣の持つ力と頼もしく思ったものです。しかしながら、産廃が止まったら何事もなかったように、今では過去のことになりつつあります。市民はほっとされたでしょうけれども、元の水俣に戻ったというだけで、別に景気が良くなったわけでもありませんし、そんないつまでも感動に浸っている状態ではないのでしょうか。これからの私の働きぶりに市民は大いに関心を寄せているようです。

短い自由時間

それにしても、2期5年目を迎えてしみじみ思うのですが、市長職はなかなか気が休まらないものですね。外ではお酒を飲んでも余計なことはいけませんし、背筋を伸ばして飲まないといけないし。わが家ではおもしろい一人飲んで、二日酔いしたこともあります。精いっぱいやっていても、足は引っぱられるし、最近足が長くなったのも、まさか気のせいでもないように思います。でも、市役所は

かお腹を撫でるように要求します。そこには、ほっとする安らぎの時間があります。ムーとの楽しみは散歩の時間です。季節の移ろいを感じながら、いろいろなことをムーに話し掛けます。いつも黙って聞いてくれます。気取ることも気を使うこともなく、自然に振る舞えるわが家に癒やされて、今日も一日頑張ろうと思えるのです。

心に残る思い出

私は昭和42年に水俣市へ新任教師として赴任してきて、そのまま故郷へ帰ることもなく、以来水俣に住み着きました。市内のほとんどの小・中学校でお世話になりました。現在、学校再編成によって思い出の学校が閉校していくのが寂しくもあります。田舎においての学校は地域の中心でありますし、地域の方々の愛情が深く注がれています。教えるべき立場であった私でしたが、逆に学ばせてもらったことが多かったように思えます。その中でも、初年度に大先輩の校長先生から、こんなことを言われました。「宮本さん、あなたは先生にならんといかん」。何を言っておられるのか分からなかったのですが、「あのな、この職業は色々呼ぶ方がありますが、1日の飯のために働くのが、教員という。技能、技術ば教員つとが、教諭。ようと聞いと聞きなせ。子



中尾山のコスモス



みなまた新鮮市

どもの心に灯をともしすが、先生、ばい。あなたは、先生、にならんといかん」。この言葉を今でも噛みしめています。1人でもいい、市民の心に灯をともしべく、まだまだ若くあらなくてはならない毎日を送っています。
「夢にも思っていなかった」市長という重い職責。

先人たちが一生懸命築いてきた本市の歴史と文化を、私たちは、受け継ぎ、さらに築き上げ、新たな価値を創造しなければなりません。その一翼を担い、自分に与えられた職責に懸命に応えなければならぬと思っています。